

令和8年度

学校経営方針



縦割り班（異学年）で学習・計画方法を共有



丹波市立山南中学校

「令和8年度学校経営方針」の策定にあたって

1 はじめに ～次期学習指導要領を見据えて～

私たちが生きる21世紀は、社会の在り方が劇的に変わる「Society5.0時代」、先行き不透明な「予測困難な時代」と言われています。このような時代の中、学校においては子どもたち一人ひとりが自分らしく力強く生き抜く力を身につけるために、一人ひとりの可能性を引き出し、個別最適な学びと協働的な学びを実現する「令和の日本型学校教育」を展開しています。主体的・対話的で深い学びにつながる授業づくり、内面理解に基づく発達支持的生徒指導の推進等、私たち教職員には多くのことが求められています。

令和7年9月に次期学習指導要領策定に向けた論点整理（素案）が中教審の特別部会で示されました。これにより令和12年以降の教育の方向性がつかめます。大まかなポイントとしては、

- ①学習指導要領全体が表形式化、デジタル化され、見やすく使い安くなること
- ②学びに向かう力、人間性等が再整理されること
- ③柔軟な教育課程が導入されること
- ④情報教育と探求的な学びを一体的に改善すること
- ⑤教科書内容を精選するとともに高校入試との関連を図ること

等が挙げられます。これらからわかることは、今後の日本の教育は現行の学習指導要領を深化させつつも、時代の変化に柔軟に対応していくことや、③にあるように学校・子どもの実態に応じて教育を展開していくことが求められているということです。私たち教職員一人ひとりが教育ビジョンを共有するとともに、これらのニーズに柔軟に対応するための教育力量の向上を図る必要があります。

2 統合前後の取組を振り返って ～新しい学校の基盤づくり～

「自分たちの学校は自分たちでつくる」これは統合に際して、教職員、生徒ともに一貫して大切にしてきた考え方であり、すべての取組の基盤となりました。平成23年には地域で統合の大枠を考える準備委員会等が組織され協議がすすめられてきましたが、令和3年からは学校においても教職員による合同研修会、生徒版統合準備委員会を定期的開催し、教育課程の編成をはじめ、生徒会組織づくり、生徒心得の作成等、精力的に取り組んできました。文字通り、自分たちの手で自分たちの学校づくりに取り組んできました。

令和5年4月の開校後は、新しいメンバーを加え準備をすすめてきた生徒、教職員をはじめ保護者、地域の願いを踏まえながら日々の授業や学校行事、生徒会活動、PTA活動等の様々な教育活動を通して、新しい山南中学校をつくってきています。

統合から3年を経過した今、統合の精神、積み上げてきた取組を生かしながら、さらなる発展をめざす次のステージを迎えようとしています。



生徒版統合準備委員会の様子 R4.3

3 今後の取組の方向性 ～3年間の取組を生かして～

入念に準備をしたつもりでしたが、いざ開校するとスムーズにすすめられることばかりではありませんでした。しかしその都度、知恵を出し合い、協力しながら困難を乗り越えてきました。それらの積み重ねで新しい学校の基盤がつくられてきたのだと考えます。

生徒会活動も同様で、生徒数増により各活動がにぎやかになり盛り上がることも増えましたが、その反面、活動を始めるのに時間がかかったり、考え方の違いを調整したり、気を遣うことが増えたりと、負担に感じることも少なくありませんでした。しかし、そのようなときに機能したのは、統合に向けて共に準備に取り組んだリーダーたちであり、そのリーダーを支えようとする周囲のやさしさでした。日々の生活の中で、学校行事を通してお互いを信頼しあえる集団へと成長していきました。この気風は今後も大切に育てていきたいです。

学習面においては、研究指定を生かし、生徒一人ひとりが自分の学習の在り方を考え実行する「学びのマネジメント力」の育成をすすめました。定期考査に取り組む際、学習時間を決める（TM）ことに加え、自分の課題に合わせて学習内容を決める

（PM）ことをすすめました。定着には時間を要しますが、学ぶ目的を可視化する「目標達成シート」を併用することで、将来の自己実現にも生かせる取組とすることが期待されます。また、生徒会主催の異学年集団「縦割り班」活動（表紙写真）と関連させたことで、学年を超えて勉強の仕方を共有することにつながっています。今後も充実させたい取組です。

また、現在の課題から今後の目標を設定したり、具体的な取組内容を決めたりする際に、定期的に熟議を開催し、情報の共有を図りました。この取組は、教育活動に限らず、組織的に取り組む際に必要な過程であり、一人ひとりが目的意識を持って取り組み、成果を生むために欠かすことができません。「自分たちでつくる学校」の実現のため、継続して取り組んでいきます。



PM・TMシートの取組 R7.11

4 令和8年度に向けて ～生徒・保護者・地域の思いを踏まえて～

令和8年1月に生徒、教職員、保護者、地域住民それぞれの代表者による意見交流会（熟議）を実施しました。そこでは将来の山南中をイメージしながら、「こんなことができる学校」「その実現のために必要なこと」について意見を交わしました。我がことのように熱く思いを語る大人の姿、その思いに応えようと真剣に耳を傾けながらも自分の考えを発信する生徒の姿を目の当たりにし、心強さ感じるとともに、今後の学校づくりに向けての決意を固めたところです。

熟議での意見をはじめ、毎年行う学校評価アンケート（教職員・生徒・保護者）の結果、全国学力・学習状況調査結果等の学習成果、教育課程・校務分掌評価等の内部評価結果を踏まえ、令和8年度山南中学校の学校運営方針・重点取組事項をまとめました。これに基づき、学校運営協議会とも連携しながら、教職員が一丸となって学校づくりをすすめていきましょう。



【生徒の姿】

- 規範・人権意識が高く、人の役に立つ人間になりたいと考え、行動している
- 仲間と協力・工夫しながら、新たな活動にも意欲的に取り組むことができる
- 真面目に諸活動に取り組むが、受け身になりがちで、主体性・計画性の育成が課題である



【保護者・地域の願い】

- 自分で考え、判断し、行動できる人になってほしい
- 思いやりのある人になってほしい
- 家族、友達、地域を大切にしてほしい
- 夢や目標を持ち、その実現に向けて努力してほしい

【兵庫県基本理念】

兵庫が育む ころろ豊かで自立する人づくり
「絆を深め、在りたい未来を創造する力」の育成

【丹波市基本目標】

人を愛し ふるさとを想い
しあわせのカタチを創造できる 人づくり



【学校教育目標】

地域に誇りを持ち 豊かな人生を切り拓く生徒の育成

～ふるさと山南で育む 主体的、計画的、創造的に取り組む力～

【めざす生徒の姿】

- 自らの目標に向かって学び続ける生徒
- 自分で考え、判断し、行動できる生徒
- 多様な人々と協働しながら
何事にも挑戦できる生徒
- 自分も他者も大切にできる
思いやりのある生徒
- 地域、社会に貢献できる生徒



【めざす教職員の姿】

- 生徒一人ひとりのよさを最大限に引き出し、主体的、協働的な活動を支援する教職員
- 学校教育を取り巻く環境の変化に柔軟に対応し、学び続ける教職員
- 家庭や地域と連携しながら学校づくりにチームで取り組む教職員
- 教育者としての自覚と誇りをもって働く教職員



4つの重点取組項目

【すべての生徒が安心して
学び生活できる居場所づくり】

- 生徒の内面理解に基づく対話を大切にした指導・支援の充実
- いじめ・暴力を許さず、不登校を生まない学校風土の醸成
- 一人ひとりが認められ自己有用感を感じる自治活動の推進

【生涯学び続けるための
基盤となる力の育成】

- 授業のUD化を基盤に、すべての生徒が主体的・協働的に学ぶ授業づくり
- 自ら立てた目標の達成に向けて取組(学習)をマネジメントする力の育成
- 難しいことにも諦めず挑戦しようとする態度の育成

【教職員の組織力・指導力
向上と業務改善の推進】

- 風通しのよい職場風土の醸成と校内組織の見直し・活性化
- 計画的な業務遂行・年休取得等による超過勤務時間の縮減とワークライフシナジーの実現
- OJTをはじめとする各種研修機会の活用

【地域とともに取り組む
キャリア教育の推進】

- 地域の「ひと・こと・もの」を生かしアントレプレナーシップ教育の視点を踏まえたキャリア教育の推進
- 地域と積極的に関わる機会の充実
- 学校運営協議会を核とした地域との連携充実



令和8年度 4つの重点取組項目に関する具体的な手立て

1 すべての生徒が安心して学び生活できる居場所づくり

- (1) 生徒の内面理解に基づく対話を大切にした生徒指導、支援の充実
 - ・傾聴を心がけ、生徒一人ひとりを「認める」「褒める」「伸ばす」指導の徹底
 - ・生活指導委員会、各学年会を核とする組織的な校内体制の充実
 - ・定期的を実施する生活アンケートの活用と生徒面談の充実
- (2) いじめ・暴力を許さず、不登校を生まない学校風土の醸成
 - ・些細な変化を見逃さない取組（未然防止、早期発見、即対応）の**徹底**
 - ・同和、平和を核とする人権課題解決に生徒主体で取り組む活動の充実
 - ・市教育支援センターをはじめとする関係諸機関との連携強化
- (3) 生徒一人ひとりが認められ自己有用感を感じる自治活動の推進
 - ・生徒会活動を中心とした生徒自身が主体的、協働的に取り組む活動の充実

【評価指標】

- 「困りごとや悩みごとを相談できる先生がいる：80%」（年度末：生徒アンケート）
- 「不登校：前年度より減、新規不登校：0」（年度末：実人数）
- 「山南中の生徒でよかったと思う：100%」（年度末：生徒アンケート）

2 生涯学び続けるための基盤となる力の育成

- (1) 授業のUD化を基盤に、すべての生徒が主体的・協働的に学ぶ授業づくり
 - ・生徒一人ひとりの**困り感の把握**と課題に対応した具体的支援策の**作成**、共有
 - ・**各教科の特性を生かし**、生徒が意欲的に学習に取り組む授業（**探求型等**）づくり
 - ・各種調査結果等を生かした基礎基本の確実な定着に向けた学習支援の推進
- (2) **自ら立てた目標の達成に向けて、取組（学習）をマネジメントする力の育成**
 - ・生徒一人ひとりの課題に応じた目標設定（目標達成シートの活用）
 - ・「何を」「いつ」「どれだけ」取り組むのかを可視化した学習スタイルの構築（**PM/TMシートの改訂、活用**）
- (3) **難しいことにも諦めず挑戦しようとする態度の育成**
 - ・英検チャレンジ事業等、自ら学ぶ**機会**の積極的な活用
 - ・「丁寧な指導」から「適切な支援」への転換 ⇒双方向のやりとりへ

【評価指標】

- 「もっと学習したい、わかりたいと思う：80%」（年度末：生徒アンケート）
- 「自分の課題に応じたやり方で計画的に学習している：80%」（年度末：生徒アンケート）
- 「英語検定3級取得率 2年：20% 3年：50%」（年度末：生徒実績）

3 教職員の組織力向上と業務改善、人材育成

- (1) 風通しのよい職場風土の醸成と校内組織の活性化
 - ・校内組織を生かした教職員の協働体制の充実
 - ・会議時間、協議内容を明確にした計画的な会議の開催

(時間割内に時間設定、年間行事予定表に明記)

- ・教育評価を活用した組織、業務の見直し、改善
- (2) 計画的な業務遂行、年休取得等によるワークライフシナジーの実現
- ・タイムマネジメントによる「時間」を意識した働き方の推進 (記録簿の活用)
 - ・計画的な年休取得の推進 ⇒労働安全衛生委員会の取組
- (3) 研修機会の充実
- ・研修委員会を中心にした計画的な研修会の開催
 - ・OJT、自主研修の奨励

【評価指標】

- 「校務分掌に基づき、教職員全員で組織的・協働的に教育活動に取り組んでいる：80%」
(年度末：教職員アンケート)
- 「年休取得日数：各学期2日以上」(年度末：実取得日数)
- 「自己研鑽に努めている：80%」(年度末：教職員アンケート)

4 地域資源とともに取り組むキャリア教育の推進

- (1) 地域の「ひと・こと・もの」を生かしたキャリア教育の推進
- ・地域の様々な教育資源 (企業、行事、特産物、歴史等) を生かした学習の充実
 - ・アントレプレナーシップ教育の視点を踏まえた系統的な取組の確立
- (2) 地域と積極的に関わる機会の充実
- ・トライやる・ウィークや地域行事等、生徒が地域で活動する機会の活用
 - ・自治振興会や活動団体等と連携した取組の充実
- (3) 学校運営協議会を核とした地域との連携充実
- ・学校運営協議会を生かし、地域とつなぐ、つながる機会の充実
 - ・学校行事やオープンスクール等、教育活動の積極的な公開と学校ホームページ、各種通信の充実

【評価指標】

- 「保護者、地域等と連携して教育活動をすすめている：80%」(年度末：教職員アンケート)
- 「地域で活動した回数：1回以上」(年度末：生徒実績)
- 「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある：80%」
(年度末：生徒アンケート)



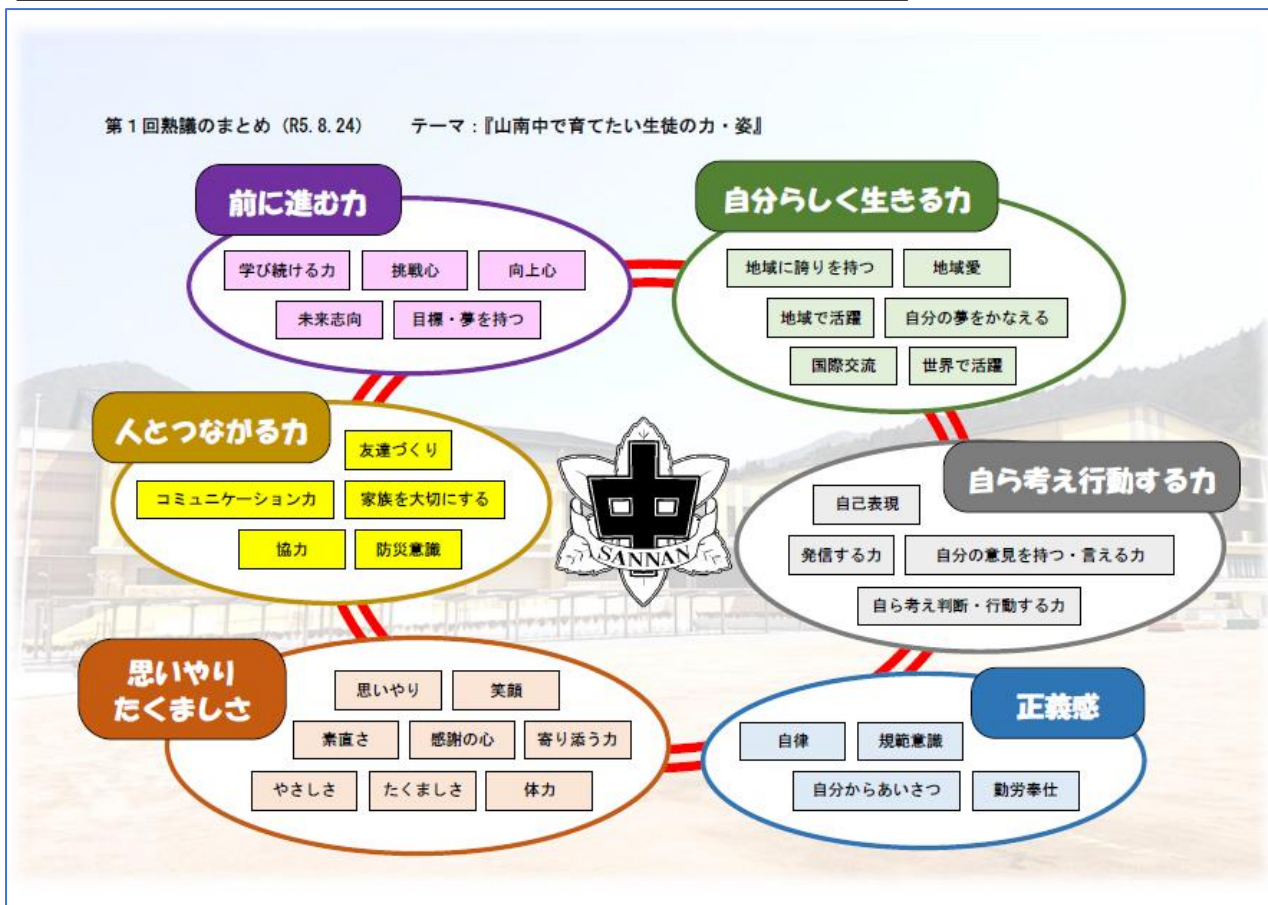
4者意見交流会の様子 R8.1

【こんな（ことができる）学校 ～次のステージに向けて～】



令和8年1月27日

学校職員・保護者・地域住民代表熟議のまとめ R5.8.24



学校職員熟議のまとめ R5.12.25

